



『東北圏だより』

新室長着任にあたって

東北圏広域地方計画推進室長 安藤 淳

（東北地方整備局 副局長）

皆様こんにちは。9月4日付けで東北圏広域地方計画推進室長を拝命しました安藤と申します。よろしくお願いいたします。

改めて申し上げるまでもありませんが、東北圏広域地方計画は東北地方の国土形成の基本方針や目標、戦略的に実施すべき具体的な施策等を明確にするものであり、平成21年8月に策定されました。その後平成23年3月に東日本大震災が発生したことを受けて、同年9月から見直し作業に着手し、これまで有識者懇談会、シンポジウム等を開催しながら、変更計画素案のとりまとめを行ってきています。一方国では、国土強靱化基本法案が国会に提出されるなど、大規模な災害に対してどのように対応していくのか、現在積極的な議論が行われています。今後は、この議論の状況を見ながら、作業を進めることとしています。

東北地方は人口1,171万人、域内総生産約40兆円とスウェーデンやスイス等と同じ人口や経済の集積があります。このように欧州の中規模な国に相当する東北地方において、東日本大震災からの復興をはじめ、産業の活性化、自然資源や歴史文化の保全・活用、国際交流の強化等の課題に適切に対応して行くためには、地域づくりの指針となる広域的な計画が必要と考えています。

東北地方の発展のために皆様と一緒に取り組んでまいり所存ですので、今後ともご支援、ご協力をお願い申し上げます。



山形デスティネーションキャンペーン開催

山形県



山形県では、平成26年6月14日（土）から9月13日（土）まで、「山形デスティネーションキャンペーン（山形DC）」を開催します。

DCは、地方自治体等がJRグループと連携して、対象エリアの集中的な宣伝を広域で実施することにより、全国からの誘客を図ることを目的とする日本最大規模の観光キャンペーンで、山形県は6回目の開催となります。

山形DCは、「日本人の心のふるさと 美しい山形」を実感できる滞在型の旅の提案を基本コンセプトとし、懐かしさ（花笠まつり、新庄まつりなど）、美味しさ（さくらんぼ、米沢牛などの豊富な食）、温かさ（県内35市町村全てに湧く温泉、人情など）、奥深さ（出羽三山に代表される精神文化など）に出会う旅を提案していきます。

また、「山形日和（やまがたびより）」をキャッチコピーとし、山形の自然、文化、食、温泉などの本県の観光の魅力をより多くの方々に実感いただけるよう、県民総参加により、官民一体となってキャンペーンを展開していきます。

なお、来年のDCに先立ち、平成25年6月15日（土）から9月14日（土）まで、DCのプレキャンペーンとして、「山形日和。」観光キャンペーンを開催しました。

「山形日和。」観光キャンペーン中は、朝摘みさくらんぼ体験及び羽黒山五重塔ライトアップなど、来年のDCを見据えた、観光誘客のための様々な特別企画が行われ、訪れたお客様からは、大変喜んでいただきました。

8月28日（水）～8月30日（金）にかけて、「山形DC全国宣伝販売促進会議」を開催し、全国の旅行会社の商品造成担当者等に、本県の観光素材や受入企画等を紹介することで、山形県の魅力を存分にPRしました。

今後は、首都圏及び関西圏の旅行会社への説明会の開催、ガイドブック作成などで山形の魅力を発信し、来年のDC成功に向け、積極的に取り組んでいきます。



「山形日和。」観光キャンペーンオープニングイベント（オープニング宣言の様子）



山形DC全国宣伝販売促進会議（全体会議における吉村山形県知事の様子）



朝摘みさくらんぼ（イメージ）

【終わりに】

山形DCのキャンペーンキャラクター「きてけろくん」を紹介します。

「きてけろくん」は、わかりやすく親しみやすい、山形県のカタチ「人の顔」をモチーフに、山形を訪れる人、山形に住んでいる人の「ほのぼのとした姿」を表したキャラクターです。

現在は、「山形県おもてなし係長」として、県内外各地に登場し、山形県をPRしています。もし、どこかで「きてけろくん」を見つけたら、ぜひ声をかけてください。



東北自動車イノベーション創出会議について

東北経済産業局

裾野が広く経済規模が大きい自動車産業は、我が国の重要な産業の一つです。特に東北地域では、平成24年7月にトヨタ自動車東日本株式会社が発足し、中部・九州に次ぐトヨタグループの第3の生産拠点として位置づけられ、震災からの復興を牽引する産業としても期待が高まっております。

東北経済産業局では、本年4月に策定した中期政策において自動車産業の集積進展に向けた取組を重点事項として位置づけ、新たに自動車産業室を設置して局内の推進体制強化を図るとともに、東北6県、産業支援機関等と連携して取組を加速させているところです。

主な取組として、幅広い企業集積の形成（地域企業の参入・納入促進、企業間連携の推進）、技術開発、人材育成、立地促進を主要項目としているところですが、これらの振興方策については、有識者の方々の意見を頂きながら進めていく必要があると考え、完成車メーカー、地域企業、大学教授、金融機関などを委員とする「東北自動車イノベーション創出会議」を設置し、その中に、技術開発、人材育成及び産業集積の各分科会を設けて、東北地域自動車産業の振興方策について、様々な角度から検討を進めているところです。

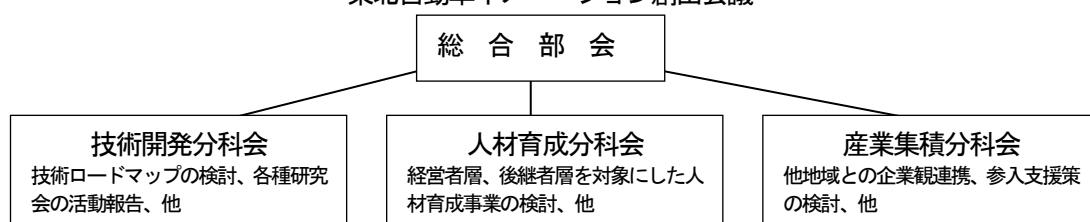
技術開発については、これまでも東北大学を中心とする車載用画像処理システムの製品開発を目指したマシンビジョン研究会をはじめ、多くのプロジェクトについて当局が支援を行い、一定の成果をあげてきているところですが、7月24日に開催された技術開発分科会では、今後東北地域企業が取り組むべき自動車関連技術を取りまとめた「技術ロードマップ」の検討を行うとともに、関東や中部地域の成熟した企業との連携の必要性や、自動車メーカーのモデルチェンジのタイミングに合わせた研究開発のあり方等について意見が出されました。

また、7月29日に開催された人材育成分科会では、自動車の製造拠点としての学校教育のあり方、今後の自動車産業参入に向けた経営者層や若手経営者・後継者の育成のあり方、企業内研修、OB人材を活用したインストラクターの育成等について活発な議論がなされました。

今後、これらの各分科会で出された意見・提言等を取りまとめ、今年度末に開催予定の総合部会に報告し、東北地域の自動車産業振興方策等を整理して、各県等との連携のもと東北地域の自動車産業振興を進めて参ります。



東北自動車イノベーション創出会議



人事異動

9月4日付け、東北圏広域地方計画推進室の人事異動がありましたので、お知らせいたします。

(新室長) 安藤 淳 (あんど う じゅん) 本省 総合政策局 公共事業企画調整課長より
(前室長) 岩崎 泰彦 (いわさき やすひこ) 九州地方整備局長へ

編集後記

DCにより、地域の方々が主体的に観光資源を掘り起こし、地域おこしのきっかけになることを願うものです。また、トヨタ自動車東日本株式会社は、岩手県の関東自動車工業(株)と宮城県のセントラル自動車(株)及びトヨタ自動車東北の3社を統合して誕生したトヨタグループのコンパクトカーの専門製造会社ですが、震災からの復興と東北経済の発展を牽引する産業として期待されています。

新たな室長の下、東北圏広域地方計画を推進して参りますので、よろしくお願ひします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。

メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp